

## ■ 「下町ボブスレー」 について

「下町ボブスレー」について、各方面から弊社にお問い合わせを頂いております。代表の奥山 睦が長年、中小企業研究をしてきたこと、また「下町ボブスレー」の公式本の著書を2013年に上梓したことで、意見を求められる機会が多くなって参りました。現在のところ時間の関係上、各社様にご対応することが難しいため、この場を借りて少し見解を述べさせていただきます。

---

私は2011年に自動車技術展「ひととくるまのテクノロジー展」(パシフィコ横浜)に行き、そこで初めて、下町ボブスレーのプロジェクトが始まることを知り、以来現在まで、同プロジェクトを傍らで見続けて参りました。

そして2012年末に、大田区工業界の方から「プロジェクトの記録を残して欲しい」とのご依頼を受けて、プロジェクトにはかったところ、本の執筆を了承して頂きました。2013年、一年かけてプロジェクトに密着取材して、公式本として『下町ボブスレー 僕らのソリが五輪に挑む』(日刊工業新聞社)を同年末に上梓致しました。

ちなみに著書印税の7割である50万円を2014年3月5日付けで、プロジェクトに寄付しております。また私及び弊社スタッフは過去20回以上、ボランティアスタッフとして、プロジェクトのイベント運営にも協力しており、私及び弊社がこのプロジェクトに関わってきたことは、地域貢献が主たる目的です。

私は「下町ボブスレー」の本を執筆する前段階として、大田区の中小企業に関する本を2005年から書いていました。また、2006年から静岡大学大学院の客員教授として、地域イノベーションについて教鞭を執り、現在に至っているという経緯があります。

ところが、本を発刊してからすぐに重篤な病気で倒れ、一年間の闘病生活を送ることになってしまいました。

その間、下町ボブスレーのプロジェクトも公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟から五輪不採用を言い渡されて、艱難辛苦を味わって参りました。しかし、彼らが底を蹴って立ち上がっていく姿に何度も励まされてきました。

そして私も 2015 年、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科後期博士課程に入学して、再起のきっかけを掴みました。

以来、下町ボブスレーを研究対象として大学の支援を頂きながら、コツコツと研究を続けて参りました。

具体的には、様々な大学での特別講義、講演、学会発表、多国語サイトでの発信などです。2017 年 6 月にはスウェーデンの国際学会での発表と、2018 年 1 月には論文集掲載も叶いました。現在、国際ジャーナルの査読論文対象にもなっています。

下町ボブスレーが五輪で滑走する姿を見届けて、博士の学位を取得するのが夢でした。今もその夢は変わっていません。

現在、下町ボブスレーに関しては、まさに意見百出という状況なのは周知の通りだと存じます。否定意見も肯定意見も相当量目にして参りました。確かにジャマイカ代表とともに平昌五輪に出場する夢が潰えてしまったという方向から見れば、残念な結果以外のなものでもありません。

しかし、彼らが大田区で蒔いたイノベーションの種は、あちこちで広がっており、それは決して全否定はできないものだと考えております。

例えば商店街での下町ボブスレーを模した商品開発と販売。

東京五輪に向けた新製品の開発。

新規産業分野への参入。

また、地域のお祭りに下町ボブスレーが出てくることによって、地域の輪を作っていくことへの寄与。

私に出来ることはたったひとつ。

エビデンスに基づき書くことによって、正確に皆様にその実態をお伝えてしていくことだと思っております。それが長年、大田区を見続けてきた者の責務だと考えております。

私は彼らがこの試練さえ、プラスに変えてしまうであろう底力を信じて、これからも傍らで見続けていきたいと思っております。

2018 年 2 月 14 日

株式会社ウイル 代表取締役 奥山 睦